



Rotary International District 2800

# 山形西ロータリークラブ会報

会長：東海林 健登 幹事：武田 岳彦

地区目標 中核的価値観のもと、時流対応の時  
～奉仕の心の醸成と実践するロータリアン～

クラブテーマ ロータリーの価値を改めて考え、そして楽しむ

◆点鐘：東海林健登 会長

◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ

◆司会：東海林仁 S.A.A.

◆完全 Zoom 例会

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



Yamagata West Rotary

第2937回例会

令和4年3月7日(月)

## 会長あいさつ

東海林 健登 会長



先週の金曜日、菅原委員長をはじめとするロータリー情報委員会によるファイヤーサイドミーティングが開催されました。武田元裕会員を講師に迎え、入会5年未満及び西山会の皆様14名で開催されました。皆さん闊達な意見交換がなされ、各自の「自分にとってのロータリー」を考えていただくための楽しい時間を過ごさせていただきました。

ところで、RCと同じような奉仕団体と世間から思われているライオンズクラブがあります。ふとながが違うのかなと頭をよぎったものですから、あらためてライオンズクラブとロータリークラブの違いを調べて見ました。

どちらも世界的に活動し、自らの身近な地域社会に向けて又は、世界中の貧困や病気で困っている方などに対して平和の推進、人道的支援等を行い、グローバル・リーダーを目指した奉仕団体であります。

歴史的観点から見るとロータリークラブは1905年アメリカのシカゴでポール・ハリスによって設立され、ライオンズクラブは1917年アメリカのダラスで元ロータリークラブ会員だったメルビン・ジョーンズの提唱により誕生した奉仕団体であります。

RC内で会の運営にあたって意見が分かれたとき、メルビン・ジョーンズは「奉仕活動に費用が発生するのは当然。ある程度の支出は仕方ない」という持論を持っておりましたが、これに対し「RCは職業を通じての奉仕を理念としている。お金はかけるべきではない。」との意見が大勢を占めたことからメルビン・ジョーンズはRCを離れライオンズクラブを設立したとのことです。確かに現在も、色々なところにライオンズ寄贈と銘打った看板、横断幕等よく見受けられます。

職業倫理の高揚を学び一人一人の職業を通じて社会に如何に奉仕するかという職業奉仕を重点に「I serve」を基本理念とした奉仕団体がRCであり、LCは、「社会奉仕」を重点にWe Serveを基本理念とした奉仕団体である。とのことであります。

## 幹事報告

武田 岳彦 幹事

- 3月14日月曜日、12時半からグランドホテルでZOOM教室を開催いたします。ご参加の方はお忘れなくご参加のほどよろしくお願いたします。
- ロータリー財団がウクライナの支援金を受け付ける業務を始めました。これに伴いまして、当クラブでも支援金の拠出、また個人への支援金の呼びかけ等を行なって、ウクライナを支援していきたいと考えております。詳しい内容は本日の理事会で話し合いをいたしますので、皆さまにはこういう支援の仕方ですとということをお知らせいたしますので、ご協力よろしくお願いたします。
- 三澤裕一会員の奥様からご寄付を頂戴いたしました。大切に使用させていただきます。三澤さんのご冥福を心からお祈りいたします。
- 今月のロータリーレートは116円です。

## 委員会報告

親睦・家族委員会

会員9名、奥様が10名、3月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

## ファイヤーサイドミーティング&西山会

3月4日(金) 会場：白ぎく



会場に13名、Zoomで5名の参加でした。ありがとうございました。

## IMのPR



小野 和行 さん

山形北ロータリークラブ  
会長

皆さん、こんにちは。本年度のIM開催のお知らせとその内容の説明に参りました。

私ども、当初、2月26日のIM開催に向けまして昨年の秋から実行委員会を立ち上げまして準備を進めてまいりましたが、今年に入りましてオミクロン株などの第6波の感染急拡大を受けまして、それでIMをどうするか、どうすべきなのかという議論を幾度となく重ねてまいりました。その結果、延期ということで4月10日曜日に開催と決定いたしました。徹底した感染予防対策を施して、参加人数を減らしての開催となります。参加いただきたい人数としまして、各クラブの3割をメドに設定させていただきました。しかし今後の感染状況次第によっては、さらに人数を減らして開催しなければならない場合もあります。その場合は、各クラブの会長幹事さん、東海林会長ならびに武田幹事さんにご連絡を申し上げたいと思っております。さまざまなお意見あるかと思いますが、どうぞご理解の上で協力くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、今回のIMはロータリーデーも兼ねておりますので、一般市民の方々、また会場に来られないロータリアンの方々にもWeb参加ということで自由に聴講していただくことになっております。山形西ロータリークラブさんからは30名のご参加をよろしくお願いいたします。3月22日まで参加者リストをご提出いただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



菱沼 充好 さん

山形北ロータリークラブ  
IM実行委員長

こんにちは。西ロータリーさんは我々北ロータリーの親クラブということで、ほんとにいつもお世話になっております。また今回IMを行うに際して、結城ガバナー補佐さんにはいろいろ実行委員会を開くにあたって適切なアドバイス等をいただきまして、IMを開催するにアドバイスいただきました。ありがとうございます。

今回のIMの内容を少しだけ説明させていただきます。開催日は4月10日曜日になります。今回のIMのテーマは「奉仕、教育、日本の心」とさせていただきます。

基調講演として、元横綱の日馬富士関にお願いしております。日馬富士関さんは、母国モンゴルに小中高の一貫の学校、「新モンゴル日馬富士学園」というのを設立されました。今現在、日馬富士関はその理事長として活躍されています。

式典や基調講演に関しまして、ZOOMで配信いたします。参加できなかった会員や一般の方に関してもご覧いただけるように配慮いたしました。

式典、基調講演終了後、懇親会を開きます。その懇親会に関して、感染対策を十分とりながらやる予定にしていますのでよろしくお願いいたします。終了は午後7時頃を予定しています。参加のほどよろしくお願いいたします。

## 結城和夫ガバナー補佐より

今日IMのPRに僕も同席して皆さんにお願いをすることであったのですが、急用ができてZOOMで参加することになりました。私も、ガバナー補佐として今までIMの実行委員会に加わってきましたけれども、北クラブの実行委員会の皆さま方が非常に一生懸命で、圧倒されながら会議を見てきました。残念なことに延期をしたのですが、4月10日に実行することになりました。いろんな苦労がありましたので、そのあたりも理解していただいて、IMの開催をみんなで期待したいと思いますので、よろしくご協力ください。

## 退会のあいさつ

### 伊庭 公也 会員

皆さま、4年間ありがとうございました。今回はZOOMの例会ということで直接お会いできず大変残念です。

多くの方々に声をかけていただきまして、公私とも大変お世話になりました。S.A.A.や親睦・家族委員、それから球風会をはじめ多くのイベントに参加、交流させていただきまして、大変ありがたかったです。

山形西ロータリークラブのますますの発展と皆さま方の健康をお祈りいたします。ありがとうございます。

### 藤田 良仁 会員

3年間お世話になりました。皆様に非常に懇意にいただき、ゴルフならびに個人的なお酒の会とか、委員では親睦・家族委員、そして会報委員と色々な立場で参加、体験をさせていただきまして、本当にありがとうございました。

山形西ロータリークラブの会員の皆さまのご多幸とご健勝を祈念しております。ありがとうございます。

## ニコニコBOX

### 〈3月7日〉

**東海林健登会長**／本日の例会に有限会社たかはしの高橋和江様、山形北ロータリークラブの小野会長、菱沼IM実行委員長をお迎えし、卓話とIMのプレゼンをいただくことにニコニコいたします。

**市村清勝会長エレクト**／山形北ロータリークラブ小野会長、菱沼IM実行委員長を歓迎してニコニコします。厳しい時期での開催でご苦労が多いと思いますが、ご成功をお祈りいたします。

### 菅原茂秋さん／ファイヤーサイドミーティングの参加御礼

3月4日開催したファイヤーサイドミーティングへ、コロナ禍にもかかわらず多数の皆さまご参加いただき感謝申し上げます。講師に武田元裕会員にオンラインでご参加いただき、「視点提起」をいただきロータリーの本質的な部分を学び、親睦を深めることができました。この学びを“奉仕”という形で結実されますことをご祈念申し上げます。武田会員にはオンラインで懇親会にもご参加いただき、場を盛り上げていただきありがとうございます。次回は奥様もご出席いただける場を企画したいと思いますので、奮ってご参加ください。

### 藤田良仁さん／お世話になりました

4月1日付で東京に異動することになりました。3年間本当にお世話になりました。山形の食べ物、お酒、風景、そして人の魅力を東京で伝播していきたいと思っております。お世話になりました。

**伊庭公也さん**／4年間大変お世話になりました。初めてのロータリー活動で大変楽しかったです。

## ゲスト卓話



### 逃げられない困難だからこそ

高橋 和江 氏

有限会社たかはし 代表

こんにちは。宮城県気仙沼市で和装小物、着物屋もやっておりますが和装肌着のブランドとして今全国に卸したり直接販売をしたりすることで商いを続けております、有限会社たかはしの高橋和江と申します。よろしくお願いいたします。

「逃げられない困難だからこそ」というタイトルをつけさせていただきました。震災を特筆して今お話をさせていただきたいと思っております。

震災から丸11年が経ちます。まずは被災当時のお話から始めたいと思います。私、被災した3.11の日は京都におりまして、ここにはいませんでした。ですからこの惨状を、テレビを通して離れた京都という地で一晩まんじりともせず本当に気仙沼が赤々と燃える火をホテルで見ていたわけですが、翌日、京都のずっと長いお付き合いのある問屋のおじちゃんが「送ってやるで」と言ってくれて、日本海側を回って翌日の夜中に気仙沼に戻ることができたわけですが、そこで目にした光景というのがこれです。

我が家の周辺 裏側



店の中はドロドロ...



まずは家の2階の住居でこの階段から周りを撮った景色がこんな感じで、我が家でも2m近くの浸水がありました。

これが家の中で、このトイレの中とか、あとこれは店の中ですけど、棚のひっくり返った足元を見てもらうと、光っているものがあるのがわかりますか？これ、サンマなんですよね。家中魚だらけ。なぜかという、冷凍冷蔵庫のある側からうちのほうに流れて、内湾の冷凍されたボックスの魚が家の中にたくさん入って、それが徐々に解けては広がるというありさまだったので、これを出していくのも大変でしたけれども、徐々にあったかくなるあの季節、もうすごいにおいと、それからハエと、粉塵の被害というのは

あまり伝えられていませんでしたけど、とんでもない状況でした。

商品も1階が全滅という状況でしたので、20年前に起業というか肌着メーカーになるという、異業種に参入しまして、自転車操業ととにかくその肌着をなんとか伸ばそうとあがいている矢先で、やっと着物の専門雑誌に取り上げられたり、新宿伊勢丹さんあたりから声が掛かって、ポップアップのショップを1週間出さないかとかいうようなことにお応えし始めてた矢先の被災でした。

そして在庫に関しては、着物の在庫も肌着の在庫もすべて1階にありましたので、現金はまったくない状態で在庫だけがいわゆる資産といわれるものだった、4千万円ぐらい原価であったのですが、これが全部、決算書でいえばグリーンと欠損になるというような状況の中で、動産保険というのは一切効かないので、1円も保険が下りないという苦しい状況での震災後のスタートでした。

こちらは町の様子です。震災から3日4日経った時に、一度町をちゃんと見ようと、当時は仕事を辞めて帰ってきていた息子がいて、その息子と、リュックに食料とか水を入れて1日かかって町の中を見た時のその町の様子です。まるでゴジラの映画の中にポーンと放り込まれたような気持ちで、しばらく現実味のないような毎日でした。

震災1週間後くらいからいろんな人が店の片付けに来てくださるようになりまして、私の自宅が2階住居だったものですから、幸い水からは難を逃れまして、幸い基礎から建物が動きませんでしたので、1階の片付けをしながら2階でみんなで炊き出しのご飯を昼にはいただくというようなことを毎日毎日繰り返していました。若者たちや息子のお友達とか、家を流されて避難所にいる子、または家は無事だったけど家で何もすることがなくなった子が毎日手伝いに来てくれたし、あと、スタッフとか親戚とかが集まって毎日10人以上片づけを手伝ってくれて、お昼に鍋でごはんを炊いてというようなことをしながら、毎日お昼の時間が楽しくて、そういう時間も過ぎつつ、また5月の末には、ちょっと仕事を抜け出して、気仙沼に有名なヤマツツジの徳仙丈という山があるんですけど、その満開に合わせて山に登って、安らぐひと時もありました。とにかく、毎日毎日忸怩たる思いというか、本当に現実を直視することができないまま日々があったような気がします。



ただ、うちは呉服屋といっても、着物を商う呉服屋さんとはちょっと違って、京染店といわれる着物のメンテナンスやなんかがメインの商売だったんですね。車屋さんといえば新車を売るディーラーと修理工場というのが明確に「車」という商材をはさんでありますけれども、うちの仕事は新反を売る呉服屋さんに対して、メンテナンスや白生地から一から誂えるというようなことがメインで、京都ですべて仕事を行うというようなそういう商いだったので、

着物を洗うということも大きなうちの仕事だったんですね。

ですので、呆然と店を片付けている時に、3週間経つか経たないかぐらいにお客さまが「いつお店を開けてくださいますか」という、ドロドロの店を目の前にして、お客様が来るようになりまして、それで「そうだ、うちは着物を売るっていうよりは皆さんの汚れた着物を洗ってさしあげなきゃいけないんだ」ということにハッと気がつき、スイッチが入り、それですぐに大工さんを頼んで家を直し、店先から片づけて、忘れもしない4月27日に再オープン、洗う着物を受け付けるということをしたんですね。

そしてそこからワッと、とにかく毎日毎日大量の着物が持ち込まれるものですから、駐車場で水を出しっぱなしでその泥と塩を抜くという作業をしながら丸洗いして、それを京都に送るということをしたすらしつつ、また、メーカーとしても、いろんな方のご支援を得て、被災していなかった工場に製造を依頼したり、肌着のほうの仕事もすぐに再開してほしいというような話があり、その震災の時は本当に皆さんいくらでもいいから頼んで、後からでいいから頼んでと言ってくださったり、「七緒」さんという着物の専門誌が通販カタログを出しているんですけども、その通販カタログに載せる予定だったものも出来上がるまで待つという、インフォメーションするからぜひがんばって再開してくれというような応援をいただいたり、本当に数えきれないほど皆さんから背中を押していただきながら事業を再開するともなくどんどん再開していったという状況にあります。

これが気仙沼市内の6年後の様子で、まだまだまだ区画整理とかができていない状態で、この時は町がどうなるか見えていない状況でした。それで「悪名高き防潮堤」と書きましたけど、こんな壁が至るところに建ちまして、あの一番華やかだった場所というのもまだまだこんな状況だったのが6年前ですね。

現在の町の様子です。それこそ市長はじめ名士が皆さんがんばってくれて、ただのコンクリートにはしたくないと言って内湾をこのような素敵な建物にしてくださったりして、今現在の気仙沼は東北一の橋が掛かったり、大変きれいな町に生まれ変わりつつあります。

震災に関しては、本当に逃られない被害だったわけですが、皆さんの今年の大雪のようなもので、自然の災害というのはどうにもなりませんけれども、そのワーっという何か毎日毎日毎日火事場の馬鹿力で、自分では普通の暮らしをしていたら絶対発揮できないような力を発揮さ

せていただきつつ、毎日毎日働いて働いて働いた日々でしたけれども、この時に、非常に後を振り返って思うことがありました。

この時とにかく苦しい苦しい苦しい毎日でしたけれども、すごく心に刻んで毎日毎日思ったことは、必ず夜は明けるということを信じ切るということでした。そこに疑いを持ったら馬力が効かなくなるというか、足もとから崩れていくような気がして、もうとにかく自分をだますという、絶対になんとかなる、絶対になんとかなるということ信じ続けて、仕事に励んでいた気がします。

この時、結局いろんなものを失ったわけですが、その時なんとかしなきゃという中でね、限られた資源、資源というか自分の手持ちの財産の中とか、それから方向とかの中で、何をやりたいかとか何がやれるかということ、本当に考えたような気がします。

その掘り下げていく、意識せずとも掘り下げなければならなかったというような中で、この「夜が必ず明けると」いうことを傍らで信じ続けるということをした結果、まず心に決めたのは「愚痴を言わないぞ」と。これは誰が悪いわけでもないけれど神の計らいであるのだから、愚痴を言ったら多分心のドロドロが吐き出せないと思ひましてね、愚痴を言わないでがむしゃらにがんばり、心の奥の奥の中の本心を、自分と対峙してみるということをしたすらししていた時間のような気がします。そして自分の中にあるゲボッと吐き出したいような汚いものとかくさいものも、総ざらい、津波の泥と一緒に整理をしていったような気がします。もうほふく前進をするような思いでしたが、ひたすらコツコツと歩んだ日々だったと思います。

そして、結果、その4千万円以上あった欠損を4年で返し、完全黒字転換にすることができて、そしてたくさんのいろんなあり得ない出会いをいただき、6人しかいなかった社員が現在は25名になりまして、新社屋を建てることができました。その新社屋のデザインを、山形のオカダデザインさんにいただいたのですが、岡田先生のご縁でとても素敵な社屋になり、そしてみんなで、とにかく25人が心を1つに合わせて仕事に向かおうということで決意した動画があります。これは去年東北博報堂さんの力を借りてパーパスを作るということに社員がみんな向き合ってくれた時の動画です。ちょっとご覧いただきたいと思います。すがすがしい気持ちとなってたくさんの人たちと出会って、素晴らしことと出会ってきたという結果ですね。こちらの動画になります。ちょっとご覧ください。

(動画視聴)

震災に遭ったからこそ出会えた人、ことがたくさんあります。その痛みが消えることはないんですけども、本当に逃げられない困難というのはまっすぐ向き合えば本当に強い味方になると実感しております。困難は必ず自分の見方になるんだということを最後にお伝えして、これでおしまいにさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



6年後

本日出席 (3 / 7)	会員総数	出席会員数
	99名	51名